2011.6.30
第28回安全・安心科学技術委員会

“想定外”を生き抜く力

大津波から生き抜いた
釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ

群馬大学大学院　教授
広域首都圏防災研究センター長
片 田 敏 孝

2011年　東日本大震災

【全国】
死者：15,434人　行方不明：　7,742人　計：23,176人
(警察庁：H23.6.15)

【釜石市】
死者：　864人　行方不明：　376人　計：　1,240人
(岩手県：H23.6.15)

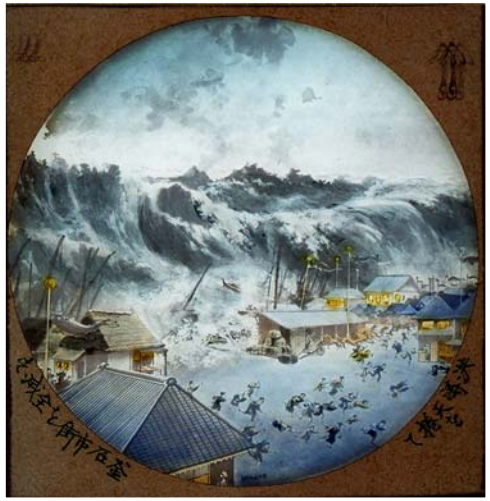
明治三陸大津波

1896年6月15日（旧暦5月5日）
死者：22,000人

明治三陸大津波による　釜石の被害

釜石全人口6,529名中　4,041名死亡

あまりの多さに蓆さえ不足した
［朝日新聞号外］



釜石で取り組んできた津波防災教育

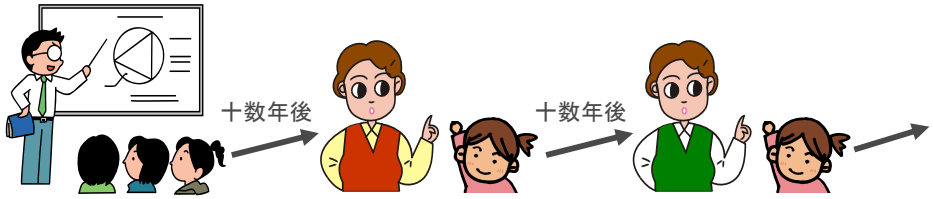
はじめは、大人を対象とした防災講演会を実施

参加者は、もともと興味・関心のある住民
何度やっても同じ顔ぶればかり

子どもを中心とした津波防災教育

10年経てば大人になる
さらに10年経てば親になる

世代間で知恵が継承され、災害文化として定着する



産経新聞(H23.3.16)

大津波から命を守り抜いた子どもたち

釜石市の小学生1,927人、中学生999人のうち、津波襲来時に学校の管理下にあった児童・生徒については、全員の無事が確認された。

ただし、津波襲来時において学校管理下でなかった児童・生徒のうち、5名が津波の犠牲となった。

・地震発生当日、学校を欠席していて被災（小学生1名、中学生1名）

・地震発生後、迎えに来た保護者に引き渡し、その避難の最中に被災（小学生1名）

・下校後、母親と買い物中に被災（小学生1名）

・地震発生後、祖母の様子を見に行ったところ、余震により箪笥が転倒し被災（中学生1名）

産経新聞（H23.4.13）